

公益社団法人 和歌山県理学療法士協会 ニュース

THE WAKAYAMA PHYSICAL THERAPY ASSOCIATION NEWS

2013 July No.69

発行
公益社団法人
和歌山県理学療法士協会

発行責任者：中前 和則
編集者：上野山 佳男
ホームページ：<http://pt-wakayama.or.jp>
メールアドレス：w-pta@ptwakayama.or.jp

巻頭言

祝 公益社団法人



会長 中前 和則

向暑の候、会員におかれましては益々ご清栄のことと存じます。

本年度は、108名の会員が入会し、県協会会員は997名（平成25年6月現在）となり、組織率は95%以上を確保しています。新人会員の方々には晴れて理学療法士になられたことのお祝いを申し上げますと共に、会員の皆様と一緒に活力ある組織にして参りたいと存じますので、ご支援ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

さて、平成25年4月1日に、ようやく県より公益社団法人化が認可され、公益社団法人和歌山県理学療法士協会として再出発することになりました。平成20年に国から制度変更が打ち出されてから、一般社団法人取得か公益社団法人取得か議論を重ね、会員の方々からのご意見を頂き、一段ハードルの高い公益社団法人化に向けて努力して参りました。準備に当たって頂きました法人化検討特別委員会の委員の先生方、並びに事務局の方々に改めて御礼申し上げます。

現在、県内のコ・メディカル団体では和歌山県看護協会、和歌山県柔道整復師会が公益社団法人を取得しています。両団体は、県内で活発な活動をしており、当業界とは職域が競合する可能性のある団体であり、取得により肩を並べることができたことは、大変意味深いことと感じております。数年後に、一般社団と公益社団の違いが明らかになってくる段階で、益々県内での公益社団法人取得の効果が現れてくると思います。

今回の改正では、公益社団法人には、一般社団法人よりも高い公益性が求められ、毎年の事業予算の50%以上が公益目的事業でなければなりません。この度の申請では、私たちが毎年行ってきた学術、公益活動の殆どが公益目的支出と認められ、共益の事務費を差し引いても80%以上が公益目的支出として認められました。従いまして、今回の法人化に伴う新たな活動変更は必要なく、従来通りの活動を行えば良いのでご安心下さい。当協会としましては、これまで通り学術、公益、職能を軸とした公益職能団体として県内での医療・福祉等の発展に寄与すると共に、これを機に社会的認知度を高め、会員の皆様が働きやすい環境整備に努めたいと考えています。

そこで、平成26年2月15日（土）にアバローム紀の国において、公益社団法人認可の記念事業を開催します。現在準備を進めている紀の国わかやま国体支援や、国が2025年を目標に進めている地域ケアシステムの構築に向けて理学療法士がどんどん活躍できるよう理解を求めていきたいと考えています。

内容につきましては、現在準備委員会にて検討しておりますが、一般公開の記念講演、記念式典、記念祝賀会を開催し、行政機関の方々をはじめ、幅広く県内の方々に当協会のアピールを行いたいと考えています。

会員の方々には、ご支援ご協力をお願い致しますと共に、公益社団法人の会員としての誇りと自覚を持って頂くことを願います。

定期総会報告

■平成 24 年度第 2 回定期総会 報告■

日 時：平成 25 年 3 月 17 日（日）11：00～12：10

場 所：有田川町金屋文化保健センター

開会の辞（事務局長：森本）

定足数：出席者数 131 名 委任状 537 名：合計 668 名

現会員数（3 月 16 日現在）894 名

規定定足数の 1/2（447 名）を超え総会成立

会長挨拶： 中前会長より挨拶

議長団の選出（執行部に一任の声あり、執行部より選出）

議 長 1 名：宮本 栄一（老人保健施設 リバティ博愛）

副 議 長 1 名：水谷 崇（辻秀輝整形外科）

書 記 2 名：辰巳 俊宏（老人保健施設 リバティ博愛）、根来 秀仁（辻秀輝整形外科）

議事録署名人 2 名：大川 直美（河西田村病院）、鈴木 健太（琴の浦リハビリテーションセンター）

議 案

第 1 号議案

平成 25 年度協会事業計画案について

- | | |
|-------------------------------------|-------------------------------------|
| 1) 協会事業計画および事務局事業計画（森本）
資料にそって説明 | 7) 紀北地域局事業計画（有馬）
資料にそって説明 |
| 2) 学術局事業計画（上西）
資料にそって説明 | 8) 中紀地域局事業計画（西川）
資料にそって説明 |
| 3) 福祉・保健局事業計画（岩崎）
資料にそって説明 | 9) 紀南地域局事業計画（安井）
資料にそって説明 |
| 4) 社会局事業計画（池田）
資料にそって説明 | 10) 代議員事業計画（林）
資料にそって説明 |
| 5) 広報局事業報告（吉富 代理森本）
資料にそって説明 | 11) 災害対策特別委員会（岩崎）
資料にそって説明 |
| 6) 厚生局事業計画（南）
資料にそって説明 | 12) 紀の国わかやま国体支援特別委員会（林）
資料にそって説明 |

議長は協会事業計画案ならびに各局事業計画案について出席者に質疑を諮ったところ質疑等は無かった。

議長は協会事業計画案ならびに各局事業計画案について出席者に承認を諮ったところ満場一致で承認された。

第 2 号議案

平成 25 年度協会事業予算案（前）

年間の事業予算案を総会資料にそって説明。和歌山国体対策積立資産、50 周年記念事業積立資産、公益法人記念事業積立資産変更により、次期繰越金額を変更修正することを説明。

議長は協会事業予算案について出席者に質疑を諮ったところ質疑等は無かった。

議長は協会事業予算案について出席者に承認を諮ったところ満場一致で承認された。

第 3 号議案

1 資産取得資金及び特定費用準備資金について（中前）

○資産取得資金

1) 会館取得積立資産

土地・会館建設資金等の取得計画について説明する。

2) 情報インフラ整備積立資産

協会の情報共有、連絡、広報事業、管理運営のためパソコン等を購入することを説明する。

○特定費用準備資金

1) 公益法人移行記念事業

公益法人移行に伴い、さらなる理学療法発展のため、記念講演会を開催することを説明する。

2) 和歌山国体対策事業

平成 27 年開催の和歌山国体において参加選手の練習中や試合中に発生するケガや事故の予防、早期の競技復帰のための理学療法を行うことを説明する。

3) 50 周年記念事業

さらなる地域医療、障害者医療、理学療法発展のため、50 周年を記念した式典、講演会を開催することを説明する。

議長は資産取得資金及び特定費用準備資金について出席者に質疑を諮ったところ質疑等は無かった。

議長は資産取得資金及び特定費用準備資金について出席者に承認を諮ったところ満場一致で承認された。

その他 議長は出席者に議案がないか問うが無かった。

議長団解任

閉会

■平成 25 年度定期総会 報告■

日 時：平成 25 年 5 月 19 日（日）10：40～11：30

場 所：和歌山県立医科大学 講堂

開会の辞（森本事務局長）

定足数：出席者数 158 名 委任状 564 名：合計 723 名

現会員数（5 月 16 日現在） 982 名

規定定足数の 1/2（491 名）を越え総会成立

会長挨拶：中前会長より挨拶

本年度より総会は年間 1 回となったので、出来るだけ総会への出席をお願いしたい。

協会年会費は和歌山県の理学療法発展の為に活用されています。

当会は公益社団法人を取得しました。公益社団法人を取得することで、社会的な認知度、地位を獲得することが出来ました。このことにより県内の各事業に参入する事が容易になっています。また、我々個々の理学療法士としては、学術研鑽・公益活動・職能活動に努める必要があります。

和歌山県理学療法士協会では新人研修プログラムを全国に先駆けて、年間 2 回の開催を計画していますので、出来るだけ早期の履修に努めて頂きたい。

今後とも協会活動にご協力をお願いいたします。

議長団の選出（執行部に一任の声あり、執行部より選出）

議 長 1 名：水谷 崇（辻秀輝整形外科）

副 議 長 1 名：赤澤 直紀（河西田村病院）

書 記 2 名：坂本 善朗・前田 彩子（琴の浦リハビリテーションセンター）

議 案

第 1 号議案

平成 24 年度協会事業報告

1) 協会事業報告および事務局事業報告（森本）

総会資料にそって説明

2) 学術局事業報告（上西）

総会資料にそって説明

3) 福祉・保健局事業報告（松井）

総会資料にそって説明

4) 社会局事業報告（池田）

総会資料にそって説明

5) 広報局事業報告（吉富）

総会資料にそって説明

6) 厚生局事業報告（南）

総会資料にそって説明

- 7) 紀北地域局事業報告 (有馬)
総会資料にそって説明
- 8) 中紀地域局事業報告 (西川)
総会資料にそって説明
- 9) 紀南地域局事業報告 (有馬)
総会資料にそって説明

- 10) 代議員報告 (林)
総会資料にそって説明
- 11) 災害対策特別委員会報告 (松井)
総会資料にそって説明
- 12) 紀の国わかやま国体支援特別委員会報告(林)
総会資料にそって説明

議長は協会事業報告ならびに各局事業報告について出席者に質疑を諮ったところ質疑等は無かった。
議長は協会事業報告ならびに各局事業報告について出席者に承認を諮ったところ全員一致で承認された。

第2号議案

平成24年度協会決算報告 (前)

事業決算を総会資料にそって説明。

議長は協会事業決算について出席者に質疑を諮ったところ質疑等は無かった。

議長は協会事業決算について出席者に承認を諮ったところ全員一致で承認された。

第3号議案

平成24年度事業・決算監査報告 (浦)

事業監査結果を総会資料にそって説明。

議長は協会事業監査結果について出席者に質疑を諮ったところ質疑等は無かった。

議長は協会事業監査結果について出席者に承認を諮ったところ全員一致で承認された。

第4号議案

議長はその他提案議題の有無を出席者に諮ったところ提案議題は無かった。

議長団解任

閉会の辞 (森本事務局長)

理事会 報告

■平成24年度第6回理事会 報告■

日時：平成25年3月16日(土) 15:30～20:00

場所：和歌山ビッグ愛 12階 協会事務所

参加者：13名

(理事) 中前、林、上西、森本、前、岩崎、松井、須賀、池田、南、有馬、

(監事) 浦、川村

(書記) 坂本

委任状：3名

(理事) 吉富、西川、安井

・会長挨拶：

日本理学療法士協会理事選挙に応援頂き誠に有り難うございました。皆様のおかげで4,506票を獲得し、当選させていただきました。

日本理学療法士協会は職能団体として教育及び学術、公益事業を展開している。この活動を通して理学療法士の社会的身分保障への活動につながっている。

職場内・近隣地域・和歌山県内の理学療法士間の協力・団結を強め、和歌山県理学療法士協会会長として日本協会に参加することにより和歌山の意見を中央に発信する努力をしていきたい。

また、和歌山県理学療法士協会の公益社団法人取得に向け理事各位にはご協力を頂き有り難うございました。法人化に向け、もう一步のところまで来ています。もう少しの間ご尽力のほどよろしくお願い致します。

議案：

1. 各局からの報告・検討事項

- ①事務局：資料にそって事業報告を行う → 承認

- ・会員動向について
会員の休会継続や新規の休会届等の申請が届いているが、退会申請者については再入会時に入会金の発生等本人に不利益が生じる事もあるという説明をし、退会から休会に変更を勧めている。
- ・平成 25 年度第 1 回理事会（拡大理事会）日程について
診療報酬等研修会にあわせて、平成 25 年 4 月 13 日（土）とする。
新人会員の入会については出来るだけ 4 月 14 日までに入会を促し、5 月 19 日の新人研修会までには必ず入会を済ませるように促す（地域局にて把握をお願いする）。

②学術局：資料にそって事業報告、事業計画の報告を行う → 承認

- ・新人研修会の日程について
平成 25 年 5 月 19 日（日）とする。
理学療法専門研修会と総会は医大講堂にて行い、新人研修会は場所を別会場に移して行い、会場使用料の軽減を図る。
- ・理学療法専門研修会（B-1・2・3・4）の日程（平成 25 年 7 月 7 日・14 日・21 日・28 日のいずれか）
- ・理学療法専門研修会（D-1・2・3、E-1・2・3）の日程（平成 25 年 8 月 4 日・11 日・18 日・25 日のいずれか）
→上記研修会開催日は講師の予定に合わせて今後決定する。
- ・平成 25 年 9 月 14 日開催予定の研修会「糖尿病の理学療法 ―最新の知見―（仮題）」
講 師：森本信三先生（白浜はまゆう病院）は予定どおりの日程で開催する。
- ・公益社団取得後の研修会については、会員外の会費を明記していく必要あり。
→ 会員外の参加費は 5,000 円とし、会員が受益者負担として受講料を設定している場合はその額に 5,000 円を上乗せして徴収する。 → 承認
- ・6 月 29 日（土）の新人歓迎会に合わせ、6 月 30 日（日）に研修会を計画する。

③福祉・保健局：資料にそって事業報告、事業計画の報告を行う → 承認

- ・平成 24 年度多職種協働による在宅チームリーダー養成研修会に参加
地域包括ケアシステムについて
今後各地域局に於いて担当部局を設置し、各地域に密接した対応を行う必要があり、今後各地域局において対応を検討する。
各地域で開催されている地域包括ケアシステムの会議の開催状況を調査する。
今後、積極的に参加していく。

④社会局：資料にそって事業報告、事業計画の報告を行う → 承認

- ・社会局、福祉・保健局合同研修会の日程について
平成 25 年 4 月 14 日（日）に日本理学療法士協会理事植松先生を外来講師として迎え開催とする。

⑤厚生局：資料にそって事業報告を行う → 承認

- ・理事・監事・部長意見交換会日程について
平成 25 年 4 月 13 日（土）18：30～アバローム紀の国にて拡大理事会終了後に開催する。
日本協会理事の植松先生にも同席していただく予定。
- ・新人歓迎会日程について
会場確保の都合により平成 25 年 6 月 29 日（土）とする。

⑥広報局：資料にそって事業報告を行う（代理 森本事務局長） → 承認

協会ニュース 3 月号を 3 月末発送予定で準備中。

⑦紀北地域局：資料にそって事業報告、事業計画の報告を行う → 承認

ブロック症例発表会を、他の協会事業と重ならないように実施予定。

⑧中紀地域局：資料にそって事業計画の報告を行う（代理 森本事務局長 → 承認

今年度中に、新人症例検討会を 2 回開催予定。

⑨紀南地域局：資料にそって事業報告を行う（代理 森本事務局長） → 承認

⑩財務局：総会資料の訂正箇所について周知

会費未納者 21 名について催促を行う。

平成 25 年 3 月 31 日に各局の 24 年度決算を締め切り、早急に決算報告を提出していただきたい。

2. その他

①法人化検討特別委員会（森本委員長より報告）

県医務課と何度か協議を行い、3 月の審議会にて条件付きで許可が出る予定。

条件については別紙参照

県より指導のあった会員から承認が必要な決議事項を、平成 24 年度第 2 回総会において会員に説明し承認を得て、総会議事録に記載した上で提出する。

会館建設資金として残してきた繰越金を、資産取得資金として会館取得積立資産・情報インフラ整備積立資産、特定費用準備資金として公益法人移行記念事業・和歌山国体対策事業・50 周年記念事業に分ける。

→ 承認

法人化検討特別委員会委員長森本を中心に、公益社団法人設立記念式典準備委員会を立ち上げて、25 年度内に開催出来るように準備・計画を進める。→ 承認

②災害対策特別委員会：資料にそって事業報告、事業計画の報告を行う → 承認

・東日本大震災リハビリテーション支援関連 10 団体主催の、災害リハビリテーションコーディネーター研修会に参加（2 月 16 日～17 日）

組織作り、研修会の開催について検討していく。委員長岩崎先生を中心に検討。

③紀の国わかやま国体、障害者スポーツ大会について：資料にそって説明

「紀の国わかやま国体各競技の開催における支援」・「全国障害者スポーツ大会各競技の開催における支援」各支援事業について担当責任者を任命する。→ 林委員長に依頼

「紀の国わかやま国体和歌山県選手団の支援」については専門性の高い分野であり、また協力人数が多くは必要がないと考えられるが、「紀の国わかやま国体各競技の開催における支援」は会場が県内各地にわたり、相当数の協力人数が必要となってくる。このため具体的に協力体制を整えて早期に主催者側と協議する必要がある。

「紀の国わかやま国体和歌山県選手団の支援」・「紀の国わかやま国体各競技の開催における支援」・「全国障害者スポーツ大会各競技の開催における支援」について委員会で協力体制を具体的に早期に計画する。

④研修会等の参加費徴収について

事務局より、「協会主催の研修会や学会等に参加が出来ない」や「経済的に困窮」という理由での退会希望者が散見される。年会費を引き下げて、研修会費の一部を受益者負担とすることも一つの案であるが如何か。→理学療法士協会は、職能団体として教育・学術活動、公益活動、身分保障活動に精力的に取り組んでいる。現在の会費は、日本理学療法士協会費：11,000 円、和歌山県理学療法士協会費：11,000 円、合計 22,000 円、月額 1,834 円であり、月額から見て国及び県内で理学療法士という専門職として活動していく方の最低限の支出と考えると決して高い金額とは言えない。モラルを持った専門職を育てる方向で協力を求めていくこととする。

⑤公益社団法人移行時の代表者は現会長の中前和則氏とする。 → 承認

■平成 25 度第 1 回拡大理事会 報告■

日 時：平成 25 年 4 月 13 日（土） 15:30～18:10

場 所：アバローム紀の国 2 階 鳳凰の間

参加者：39 名

（理事）中前、林、森本、前、岩崎、松井、池田、南、吉富、有馬、西川、安井

（監事）浦、川村（相談役）高田

（部長）坂本、小田、坂口真、滝本、中尾、浅見、原野、三嶋、中口、青石、岸尾、鳥淵、藤野、杉本
津村、石橋、上野山、阪口、岩城、船越、辻中、鍋島、泉、西畑

委任状：上西、須賀、

欠席者：（部長）小池、黒橋、赤澤、貴志、大西、橋尾、

（書記）坂本

議事録署名人：中前、浦、川村

・会長挨拶：

年に1度の拡大理事会で、事業運営について各部長に参加して頂き意見交換を行って頂きたい。
先日の公益社団法人日本理学療法士協会理事選挙にご協力を戴き有り難うございました。

会長の活動状況

- （公社）和歌山県理学療法士協会会長
- 和歌山県理学療法士連盟相談役
- （公社）日本理学療法士協会理事
- 日本理学療法士連盟副会長（全国ブロック幹事長）
- 山口かずゆき全国後援会・選挙対策本部組織局長

47都道府県士会がしっかり支える「強い職能団体」を目指す。

強い職能団体とは、治療技術向上に向けた学術団体としての活動を基盤として、公益事業活動、身分保障活動を行う、他に屈することのないバランスのとれた職能団体とする事である。

本年度より公益社団法人格を取得し、他の職能団体と台頭する基盤を築くことが出来た。

公益社団法人を取得し、これからは今まで以上に公益事業に力を注ぐ必要がある。公益事業に力を注ぐことで、社会的貢献度を上げ、理学療法の社会的認知度を向上させることに繋がると考えている。

公益社団法人を取得したことで、他の任意団体との違いを明確化し、学術・職能に更に研鑽していく必要がある。これについては、新人教育プログラムの履修率の向上に努め、理学療法士の社会的地位の向上に向けて政治活動に積極的に参加をする事が必務である。地方区では自民党、全国区では山口議員を応援する。

公益事業として、紀の国わかやま国体、第15回全国障害者スポーツ大会の支援を重点的に推進していく。

公益社団法人格を取得しても県の事業の中に理学療法士が参入出来ていないのが現状である。理学療法士協会は県の事業等、行政に参入していくことを目的に公益社団法人取得記念式典を計画している。記念事業は、会員の県内及び職場で活動しやすくするための基盤作りの一環となると考えている。

今後社会的にも強い職能団体として成長していかなければならない。

各特別委員会の機能が十分発揮されていないような印象があるので、本年度は特別委員会の活動の活性化を図っていきたい。

障害者スポーツへの関わり等、障害者団体との関わりが希薄なような印象があるので、更に密な関わりが出来るように期待している。

議案：

1. 各局からの報告・検討事項

①事務局：資料にそって事務局長・各部長より報告を行う←承認

・新入会員の承認について

平成25年3月14日～4月12日までに入会手続きを行った新入会員13名を承認

その他、復会2名、休会継続者21名、新規休会者8名、休会経過退会者4名が報告された。

・セミナー等の広報（ホームページ、ニュース）依頼について

広報規程案を提示。

・休会中の会員については継続手続き不履行につき自動退会扱いとなるものが見られる為、該当者について個々に継続の案内を送付する予定。

②学術局：資料にそって・各部長より報告を行う←承認

・新人教育プログラムの開催予定・取得単位一覧を前年度作成し、対象者より好評を得たので、本年度も作成予定。講師の先生方にはご協力を戴きたい。

・今年度より、和歌山県学会の査読を県内の先生方をお願いしたい。

・研修会参加者の中で、パソコンでの受付が出来なかった会員の情報を各地域局の先生に把握連絡を頂けるように協力をお願いしたい。

・エビデンス系の研修会が多く新人会員はエビデンスを技術に繋げていけない様であるので、技術系研修会の開催を多く組み込んでいきたい。

③福祉・保健局：資料にそって担当理事・各部長より報告を行う←承認

④社会局：資料にそって担当理事・各部長より報告を行う←承認

⑤厚生局：資料にそって担当理事・各部長より報告を行う←承認

- ・和歌山県障害者スポーツ大会への協力参加者については新人教育プログラムのポイント対象として取り扱う

⑥広報局：資料にそって担当理事・各部長より報告を行う←承認

- ・協会ニュースの通し番号は公益取得後も変更無く継続使用とする。
- ・協会ロゴマークについては、現在のまま継続するのか、または現在使用中のものから「corporate juridical person」を削除したものとする案が有るが、次回ニュース発行までに決定することとし、広報局まで意見を伝える。
- ・ホームページの更新については、情報・内容に関するコンプライアンスやセキュリティー問題などから、公益社団法人化に伴い外部業者委託でのホームページ作成を検討する。

⑦紀北地域局：資料にそって担当理事・各部長より報告を行う←承認

- ・紀北地域局会員への連絡は本年度中に全てメールにて配信に移行予定。
ガイドンスに掲載する連絡網については緊急連絡時のものとして活用する。

⑧中紀地域局：資料にそって担当理事・各部長より報告を行う←承認

⑨紀南地域局：資料にそって担当理事・各部長より報告を行う←承認

- ・協会事業に参加する会員の所属施設に偏りが見られるので、多くの施設に参加して頂けるような方策を積極的に講じていく。

⑩財務局：資料にそって担当理事・各部長より報告を行う←承認

- ・会費未納会員については各自に請求を行っていく。

⑪監事

- ・公益社団法人取得を期に更なる協会活動の繁栄を期待している。
- ・会員一人一人に不利益のない協会運営をお願いしたい。
- ・倫理委員会としても会員一人一人の倫理の向上に努めていきたい

⑫相談役

- ・和歌山県の協会活動は他に類のないほどの団結力があると思っているので今後も更なる躍進を期待している。

2. その他

①紀の国わかやま国体支援特別委員会：資料にそって委員会より報告を行う←承認

- ・和歌山市周辺等紀北地方の参加者はある程度多いが、紀南特に田辺以南では参加者が数名程度と参加者不足が危惧されるので、今後研修会等の開催を積極的に紀南地方での開催を行っていききたい。
- ・本事業は理学療法士として当然参加協力すべきものと認識しているため、県内会員全員に同様の認識を持って頂き、事業運営に協力・参加して頂きたい。

②法人化検討特別委員会：資料にそって委員会より報告を行う←承認

- ・平成26年2月に公益社団法人取得記念講演・式典を計画
- ・公益社団法人への移行に伴い、法人法・認定法・整備法を守らなければならない。
- ・今まで以上に、適正な事務処理、会計処理を行っていく必要がある。
- ・不特定多数の者の利益の増進に寄与する事業として、理学療法を通じて、健康増進・普及啓発事業を推進することで県民の医療・保健・福祉の増進に寄与することを目的に事業を実施いかなければならない。
- ・県民の医療・保健・福祉の増進に寄与することを目的に事業一般向け理学療法情報提供（ホームページの運営、パネル展示、機関紙発行事業）があり、ホームページにて「理学療法」についての解説を行い、県内の理学療法士の活動状況を公開し、理学療法に関する情報を提供していく必要がある。そのために、ホームページを今まで以上に情報開示できる内容にする必要がある。

③災害対策特別委員会：資料にそって委員会より報告を行う←承認

④山口かずゆき後援会：資料にそって後援会事務局長より報告を行う

■平成 25 年度第 2 回理事会 報告■

日 時：平成 25 年 5 月 18 日（土） 15:30～19:00

場 所：琴の浦リハビリテーションセンター

参加者：13 名

（理事）中前、林、上西、森本、前、松井、須賀、池田、南、吉富、有馬、西川、
（監事）浦

委任状：岩崎、安井

欠席者：（監事）川村

（書記）坂本

議事録署名人：中前、浦

- ・会長挨拶： 本年度の新人入会は現在 92 名で、100 名前後の予定となっています。
学術活動、公益活動、職能活動、特に学術活動に力を入れて活動していきたい。
新人教育プログラム履修研修には事務局で積極的に取り組んで頂いている。
6 月 8 日代議員総会開催予定。
日本理学療法士協会では、会館建設特別委員会委員として取り組んでおり、会館建設に向けて具体的な準備を行っている。

議 案：

1. 各局からの報告・検討事項

①事務局：森本事務局長より資料にそって報告 → 承認

新入会員の承認について

平成 25 年 4 月 13 日から 5 月 17 日に入会手続きを行った会員 90 名を承認

その他、復会者 2 名、休会継続申請者 2 名、新規休会者 1 名が報告された。

協会の異動届は紙ベースからネット登録に 12 月末に完全移行するので周知されたい。

②学術局：上西担当理事より資料にそって報告 → 承認

- ・7 月 21 日（日）予定していた理学療法専門研修会（新人教育プログラム）を 6 月 30 日に変更実施とする。
→ 承認

講師推薦については添付資料にて承認

- ・平成 25 年 8 月 18 日（日）理学療法専門研修会（新人教育プログラム）の会場が変更しているので、案内にて周知する。
- ・県主催の新人研修会は、C-7 士会活動・社会貢献の履修ポイント対象の研修にする。
- ・来年度より、県主催の新人研修会については理学療法専門研修会の案内文書には県協会として履修必須扱いの旨を表記する。
- ・来年度の新人研修会開催時期については 5 月 17・18 日に定期総会・新人歓迎会と合わせて設定出来るように検討する。
- ・新人教育プログラム履修対象事業一覧として、年間スケジュールをホームページに掲載する。
- ・リウマチ友の会より講演依頼あり（日程等は未定）→中紀局で対応する事で承認
*講師については出来るだけ県内会員から選出出来るように検討する。

③福祉・保健局：松井担当理事より資料にそって報告 → 承認

- ・公益事業のひとつとして、メタボリックの研修を計画して頂きたい

④社会局：池田担当理事より資料にそって報告 → 承認

6 月 19 日コメディカル団体会長と病院協会会長との懇談会は貴志部長出席、懇親会は中前会長出席予定。

7 月 2 日知事とメディカルスタッフ団体および病院協会会長との懇談会に中前会長・池田理事出席予定。

施設長対象の研修会を社会局で検討していく。

⑤厚生局：南担当理事より資料にそって報告 → 承認

6 月 29 日（土）新人研修会開催

役員と新人がうまくコミュニケーションがとれるような状況を設定していただきたい。

⑥広報局：吉富担当理事より資料にそって報告 → 承認

- ・ホームページの更新（業者委託）について
数社と面談 2社を最終候補にあげている。
更新作業については、各局で随時更新できる方法を導入する予定。
*今年度中に完成目標として検討する。
- ・協会ニュースについて
*新人プロフィールの掲載について
ニュース掲載用にプロフィールを募集している。
- ・事務局が把握している新入会のリストと広報局が把握しているリストの整合性を確認する。
- ・国体支援の進捗状況等を掲載していく予定。
- ・協会ロゴマークについて
*作成期限については今年度内をめどとし、業者委託含め検討していく。
現ロゴマークのデザインも視野に入れて検討する。
ロゴマークについては登録も視野に入れて準備をする。
- ・公益社団法人取得後第1号のニュースを発行 → デザインを一新する予定で準備を進めている。
- ・広報に関する規定（案）について次回理事会までに具体案を提示する。
- ・次回協会ニュース原稿〆切は6月14日。

⑦紀北地域局：有馬担当理事より資料にそって報告 → 承認

⑧中紀地域局：西川担当理事より資料にそって報告 → 承認
・12月8日開催予定の事業を12月15日に変更

⑨紀南地域局：有馬理事より代理にて資料にそって報告 → 承認

⑩財務局：前担当理事より総会資料にそって報告 → 承認
・各局の年度内事業が終了次第3月31日を待たずに随時決算報告を早急に提出して頂きたい。
・研修会の参加費徴収について
研修会の内容によっては徴収していく → 承認

2. その他

①代議員：第42回日本理学療法士協会定時総会に出席予定

②紀の国わかやま国体でのコンディショニングルームでの協力について：林理事より別紙資料にそって報告
今後、県から各市町村に意向調査を行い、会場・競技を決定していく。→ 全面的に協力することで承認
・研修会の開催を紀南方面でも多く開催する必要がある。
・協力会員を多く募集する必要がある。
・協力会員に対する日当支給を出来る範囲で検討する。
・協力依頼の文書は、病院協会・医師会からも出して頂く予定。

③法人化検討特別委員会
・公益法人取得記念事業について：森本理事より資料にそって報告 → 承認
日程は平成26年2月15日（土）、会場はアバローム紀の国に決定。
記念講演講師は東海林のり子氏に決定。
準備委員：林、上西、森本、前、吉富、松井、坂本、阪口、上野山
詳細は、今後準備委員会で検討し随時報告する。

④各施設長研修会の開催を身分対策検討委員会にて検討・準備する。

⑤県協会主催の研修会で受益者負担とする場合がある旨を総会にて周知する。

次回 第3回理事会

日時：7月20日（土）15:30～

会場：ビッグ愛 協会事務所

福祉・保健局より

福祉・保健局担当理事 松井 有史

福祉保健局では、昨年度末に訪問リハ研修参加、難病生活応援講座、今年度初旬に社会局との合同で研修会を行いました。本局では7月から11月にかけて事業が多くございます。地域の皆様と福祉・保健活動を通して理学療法士のつながりを持つよう積極的に事業展開を行う予定です。皆様のご参加をお待ちしております。

◇「訪問リハビリ研修会」

介護保険対策部員 阿川 省吾

参加者からの声として、「医療・介護制度改正の動向を示されることでリハビリテーション専門スタッフの課題等が浮き彫りになった」、「訪問リハビリテーションの共通認識が持てた」、「和歌山県では、POS 合同の研修会があまりない為、懇親会を含め、3団体の交流が図れて良かった」などがありました。多くの参加者から訪問リハのエビデンスを高めていく為、この様な研修会の開催を望む声が聞かれました。

また今回で3回目の開催となりましたが、3団体合同の研修会を開催するにあたり、予算配分や各士会の行事などの調整等において課題があるのも現状です。

当日ご参加頂きました先生方、準備に協力頂きました先生方、ありがとうございました。

主催：社団法人 和歌山県理学療法士協会、一般社団法人 和歌山県作業療法士会、和歌山県言語聴覚士会

共催：全国訪問リハビリテーション振興委員会

日時：平成25年3月2日（土）～3月3日（日）

会場：和歌山県子ども・女性・障がい者相談センター

参加者数：103名（PT：78名、OT：20名、ST：5名）

内容

- ①「医療・介護制度改正の動向とリハ専門職に期待される役割」
川越 雅弘先生（国立社会保障・人口問題研究所 企画部）
- ②「環境整備（福祉用具・住宅改修）提案の視点」
竹内 さをり先生（甲南女子大学 看護リハビリテーション学部）
- ③「地域リハビリテーション総論」
備酒 伸彦先生（神戸学院大学 総合リハビリテーション学部）
- ④「訪問リハビリテーション実務に必要なリスク管理」
平野 康之先生（徳島文理大学 保健福祉学部 理学療法学科）



◇難病生活応援講座

介護保険対策部長 赤澤 直紀

平成25年3月9日に、和歌山県子ども障害者相談センターより委託されました難病生活応援講座の事業に講師として参加いたしました。神経難病（パーキンソン病）の方に対する介助を想定した技術講習会であり、参加された方にとっては意義深いものであったと思われまます。運営にご協力頂きました先生方に感謝いたします。

事業名：難病生活応援講座

主催：和歌山県難病・子ども保健相談支援センター

日時：平成25年3月9日（土）

場所：和歌山市中央コミュニティーセンター

内容：立つ・座る・歩行動作における介助のポイント

対象：神経難病の方が参加する事業へのボランティア参加希望者

参加者：赤澤・大川・岡・中谷（河西田村）



「難病生活応援講座に参加して」

河西田村病院 中谷 聖史

平成 25 年 3 月 9 日（土）に和歌山市中央コミュニティーセンターにて行われた、難病ボランティア講座に参加させて頂きました。講座の内容は「立つ・座る・歩行動作における介助のポイント」（歩行介助においてはパーキンソン病を例に）というテーマで、介護士・介護福祉士科の学生を対象に、講義・実技指導が行われました。

参加者の皆様には熱心に取り組んで頂き、実技指導の際には、職場での介助において上手いかずに困っている点など具体的な相談も受け付けることができたかと思えます。しかし、私が普段、臨床において何気なく行っている介助法であっても、それを言語化し、尚且つ分かりやすく相手に伝えることの難しさも感じました。

今回、このような講座にスタッフの一員として初めて参加させて頂き、私自身学べたことも多く貴重な体験となりました。そして、他職種の方に動作介助の方法を分かりやすく説明できるように、自身の知識・技術の向上に努め、今後もこのような機会があれば積極的に参加させて頂きたいと思えます。

◇平成 25 年度社会局 福祉・保健局合同研修会

介護保険対策部 小橋 信行

このたび、社会局、福祉・保健局合同研修会を海南保健センターにて行われました。参加者は 169 名と多く、皆様真剣なまなざしで講義を聞いていました。

福祉保健局介護保険対策部からは「介護報酬改定」について講師をさせていただきました。

昨今の医療事情より、今後の現状を踏まえ、我々理学療法士が利用者の為に何が出来るかを問ういい機会となりました。

当日ご参加頂きました先生方、準備に協力頂きました先生方ありがとうございました。

主催：公益社団法人 和歌山県理学療法士協会

日時：平成 25 年 4 月 14 日 15：30～

会場：海南保健福祉センター

参加者数：169 名

内容：①平成 25 年度「診療報酬・介護報酬改定について」

診療報酬担当：杉本 恵章 介護報酬担当：小橋 信行

②「2025 年を見据えた地域包括ケアシステムにおける理学療法士の役割」

～理学療法士 グランドデザイン～

星城大学大学院健康支援学研究科 教授 植松 光紀 先生

「平成 25 年度社会局 福祉・保健局合同研修会報告」

社会局 診療報酬身分対策部 杉本 恵章

平成 25 年 4 月 14 日に海南保健福祉センターにて、平成 25 年度社会局、福祉・保健局合同研修会が行われました（参加 188 名、新入会員 16 名含む）。最初に平成 24 年度改定における診療報酬及び介護報酬の要点及び改定後の動向について、社会局、福祉・保健局の担当者が講義を行いました。診療報酬身分対策部では昨年度末に平成 24 年度改定における各施設の対応等に関するアンケート結果について報告しました。外来リハビリテーション診療料や次期改定での要介護被保険者等における標準的算定日数超えの脳血管疾患等・運動器リハビリテーション料算定不可に対する対応等、各施設で対応に苦慮している様子がかがえしました。介護保険対策部は小橋先生が講義され、介護報酬の要点や実際にあった介護報酬にまつわる事例等を交えて解説して頂きました。

次いで昨年に引き続き、日本理学療法士協会業務執行理事・職能局長の植松光俊先生（星城大学大学院 健康支援学研究科長）を講師にお招きして、2013 年国民の保健福祉を支援する理学療法士グランドデザイン「2025 年を見据えた地域包括ケアシステムにおける理学療法士の役割」というタイトルでご講演頂きました。



2025年に向けて、日本理学療法士協会も今後の指針を作成しなければいけないということでありました。会員数の増加に伴い、我々の職場をどう作っていき、どの職域に力を入れていくか、国民の期待に、国の目標にどう応えて行くかを考えていく必要があるとのことでした。

国の方向性を受けてということで、各種データを基に様々な側面から説明を行っていただきました。2025年に高齢者人口は概ねピークを迎えることから、国は2025年を見据え、社会保障費を考慮した政策を行っていくとのことでした。理学療法士は医療・介護、予防領域における専門性を高め、職域を拡大していくことが重要であると話されていました。

今後、理学療法の分野では「がん」、「肺炎等急変時廃用障害予防」、「精神疾患」、「救急医療」、「災害時における医療」、「在宅医療」の領域にも力を入れていく必要があると話されていました。

地域包括ケアシステムの概要として、ニーズに応じた住宅の提供がまずポイントになるとのことでした。必要なサービスが提供される圏域は中学校区、サービス提供体制は2025年に整備・実現、サービスの量的拡充とシステムの機能強化、「自助、互助、共助、公助」の役割分担と連携体制（自分のことをやっていくことを教えるのはリハビリテーション専門職の重要な役目である）、「自助、互助」の推進と支援等が挙げられます。今後は医療の機能分化と疾病構造に合わせた、理学療法の専門分化を推進せざるを得ない状況であるとのことでした。国の方向性として高度急性期病院・在宅医療に重点を置き、「施設」から「在宅」へ、在宅リハサービス（訪問・通所系リハ）、予防医学を推進し、この方向に対応できる理学療法士教育が必要であると話されました。

これらの説明を踏まえた上で、医療・介護・予防領域での課題や問題点及び今後の方向性について説明していただきました。医療保険領域では特に急性期理学療法の充実や特定理学療法士（仮称、終末期、認知症、災害医療における理学療法について、介護保険領域では各種サービスの問題点や在宅回復期リハビリテーションについて、予防領域でも高齢者、障害児・者、子供、女性の健康増進や生活機能予防、スポーツ外傷・障害の予防、労働者のメンタルヘルスの向上等についての説明がありました。

最後に今後のニーズの高い新たな領域、分野、資格について説明がありました。厚生労働省試算から見込まれる2025年のPT需要は約16万人に対し、22万人の供給体制からこれらの余剰に対する職域拡大を図らなければ会員の未来はないと話されました。

日本理学療法士協会が求めるものとして、「質の向上」、「提案型管理者」「起業家」にウエイトを置いていくとのことでした。今後は質の向上にもっと力を入れていく必要があり、グランドデザインを実現するためには質の高いものを実践できる教育が必要であるとのことでした。優秀な管理者が職場を大きくしていくことから管理者教育の重要性や起業家の育成等の重要性を訴えておられました。また免許更新制の導入に関するお話もありました。

お話の中で様々なことを要望するためにはエビデンスの提出が必要であるとのことでしたが、我々の業務の中で常に結果を出していくことの重要性を感じました。また、マネージメントや包括的指示等のキーワードがたびたび出てきますが、今後、他の職種との差別化を図り、我々の業務内容を変化させて行くためには、我々自身の資質向上を図ることが重要であり、その結果として職域の拡大に結び付くことが出来ると感じました。我々の未来はまだまだ厳しいものと思われそうですが、我々理学療法士が生き残っていくためには、常に患者様の利益につながることを考え、「理学療法士でなければ」と言ってもらえるように頑張っていくことを、今回の貴重なお話から再考させられました。

「社会局・福祉保健局合同研修会に参加して」

寺下病院 河口 紗織

平成25年4月14日に社会局・福祉保健局合同研修会に参加いたしました。植松教授から「2025年を見据えた地域包括ケアシステムにおける理学療法士の役割」という題名で、理学療法士の現状をはじめとし、国の方向性、医療保険領域、介護保険領域、予防領域等、分かりやすいスライドと丁寧な説明で、地域包括ケアシステムでの理学療法士の役割及び大切さを学びました。

杉本先生の診療報酬改定、小橋先生の介護報酬改定については、私たちが直接関係のあるテーマで、参加者も真剣に聞いていたように思います。

これから、医療・介護制度が変わっていく時代で、理学療法士の役割は何なんだろうと切実に考えるようになり、また日ごろの臨床だけでなくもっと多角的な考えを持つよう思う1日でした。

参加させていただきまして、本当に良かったと思います。

◇第13回和歌山県障害者スポーツ大会参加報告

対外交流部長 石橋 昭人

第13回和歌山県障害者スポーツ大会に、対外交流部より運営協力として参加して来ました。前回は紀三井寺の補助競技場でしたが、今回は綺麗にリニューアルされた紀三井寺陸上競技場を使用させて頂きました。スタンドにはビジョンも有り、本当に快適なスタジアムに生まれ変わっています。

尚2015年(平成27年)には「紀の国わかやま国体」が開催されますが、それに引き続き「第15回全国障害者スポーツ大会」も和歌山県で開催されます。これからも和歌山県障害者スポーツ協会への、ご理解ご協力をよろしくお願い致します。

「第13回和歌山県障害者スポーツ大会のボランティアに参加して」

嶋本脳神経外科・内科 辻 友晃

第13回和歌山県障害者スポーツ大会のボランティアに参加し、知能・機能障害を持つ方、他施設の先生方、幅広い年代の方々と関わらせていただきました。実際にスポーツ観戦なども出来、貴重な経験をさせていただきました。

ボランティアの役割(選手の確認・誘導など)は、事前に決められていましたが、変更などあり、興奮されている方などからも、いろんな質問などありました。その時に、自分から出来ることを見つけることや、その都度、臨機応変に対応することが必要でした。それらは、普段の臨床現場などでも同じことと思います。セラピスト側の雰囲気、言動などは患者様に多大な影響を与えるので、今後この経験を生かし、どの年代の方とも打ち解けられる雰囲気作りや、柔軟な対応・姿勢で臨んでいこうと思います。

「障害者スポーツ大会のボランティアに参加して」

和歌山県立医科大学 サテライト診療所 宮本 恭子

私は、今年で理学療法士2年目になります。1年目に長居競技場で行われたJAPANパラリンピックのボランティアに参加させて頂いたことがきっかけで障害者スポーツに興味を持ち、去年から障害者スポーツ大会のボランティアに参加させて頂いています。

初めて障害者スポーツに携わったときは、想像していた以上に機能レベルのクラス分けが細かく、視覚障害や脊髄・頸椎損傷、切断など障害別によって様々な工夫をしながら日々練習されていることを知りとても驚きました。その時は10代から30代の選手が多く、選手自身が記録という大きな目標に向かってモチベーションを高く持ち、頑張っている姿が印象的でした。

しかし、今回の障害者スポーツ大会では、年齢も10代から80代と幅広い年齢層の方が参加されており、記録を残すということだけに捉われずスポーツを通して健康を維持することや残存機能の強化、選手同士の親交を深める場、地域の人との交流の場になっていることがとても印象に残っています。この経験は選手が日常生活や社会参加において、何かをやり遂げる自信に繋がったり新たな自分の可能性に気付く大切な時間でもあると感じました。

また、大会を開催するにあたり様々な職種の方やボランティアの方がお互いの職種を活かして連携を取り合うことの難しさも痛感し、選手が安心して競技に取り組める環境作りが重要であると思いました。

今回、ボランティアに参加させて頂き、より障害者スポーツに携わりたいという気持ちが強くなり、今後私も理学療法士として選手のサポートやボランティアなど積極的に参加していきたいと思います。

最後になりましたが、関係者の皆様、諸先生方には貴重な経験をさせて頂き本当にありがとうございました。またご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

◇平成 25 年度和歌山県理学療法士協会新人歓迎懇親会

厚生局 福利厚生部長 津村 正臣

去る 6 月 29 日にアバローム紀の国にて平成 25 年度和歌山県理学療法士協会新人歓迎会が行われました。今年も県内各地より新人の先生方を含め、156 人もの多数の参加を頂きました。誠にありがとうございました。新人の先生方の個性あふれる自己紹介、先輩の先生方のマイクパフォーマンスも冴えわたり、大盛り上がりの後に終宴となりました。

新人の先生方はいかがだったでしょうか？ 楽しんでいただけましたか？

このようなざっくばらんな会を機に、協会活動にもどんどん参加していただければ幸いです。ありがとうございました。



広報局より

ブロック通信

海南医療センター 中村 友樹

皆さん初めまして。海南医療センターの中村友樹と申します。新病院へ移行し、名前も海南市民病院から海南医療センターへと変わり早 3 か月。ようやく院内の様々な事が軌道に乗り始めた感がありますが、まだまだ模索の日々が続いております。

さて、今回協会ニュースに寄稿させていただく機会をいただきまして、さて何を書こうかと考えましたが、ここはやはり私の趣味である「自転車」について簡単ではありますが書かせていただきます。

最近世間一般でロードバイクやマウンテンバイク(以下 MTB)などスポーツバイクが非常に流行しており、天気の良い週末には必ずといっていいほど自転車乗りが各地に出没します。かくいう私も、ロードバイクと MTB をそれぞれ所有しており、週末にはやはり海や山に繰り出し、レースやイベントなどで遠征に出かけることもあります。

しかし、暑い日も寒い日も外に出て走るだけのスポーツなので、やらない人にはなかなか理解しがたいようで、よく「自転車の面白さって何？」と聞かれることが多いです。自転車の面白さと一言で行っても色々あって、私の場合はまず「自力で遠くまで行ける」ことだと思います。自転車に乗り始めた頃、それまでは車で行くのが当たり前と思っていた町まで自転車で辿り着いた時に感じた達成感が忘れられず、距離も徐々に伸びていき今では南は新宮、東は伊勢、北は琵琶湖まで自転車で行くほどになりました。当然、そんな遠くまで行くのはしんどくて大変です。しかし汗をかき疲労困憊になりながらも辿り着いた時の達成感、自己効力感たるや言葉では言い表せないものがあります。





なので「自力で遠くまで行ける」ことが面白さと言われてもなかなか実感しがたく、ピンとこないだろうと思います。こればかりは実際に乗らないと分からないでしょうから、もし自転車の面白さを知りたいのなら、まずは一度自転車に跨ってみることをぜひお勧めいたします。

また、自転車に乗っていると色んな年代、職種の人たちとの交流ができることも魅力の一つで、私の場合で上は60代の方から下は20代の女子と非常に幅広く、またSNSを介して他府県の人とも交流があります。中には非常に競技志向の強い人もいて、トレーニングメソッドに関しての造詣が非常に深く理学療法士に勝るとも劣らない知識を有している方もいらっしゃるの、そういう意味でも刺激を受けることもあります。

あと、忘れてはならないのが美味しいもの巡り！自転車で行けばカロリー消費もバッチリなので存分に美味しいもの



のを堪能できるというわけで、これが実は自転車を続けている一番の理由…なのかも？

ちなみに私のお気に入り、有田川町の「道の駅 明恵ふるさと館」の焼き鳥と、高野町の「みろく石本舗 かさ國」のくるみ餅、そして御坊市の「せち焼き」です。そんな魅力いっぱい？？のサイクルライフ、皆さんにもぜひお勧めいたします！

地域局より

【紀北発信】

紀北地域局担当理事 有馬 聡

平成24年度第2ブロック主催紀北地区合同勉強会開催：担当小林（角谷リハ）

日時：平成25年3月31日（日）9：30～12：40

場所：和歌山労災病院 2階大会議室

内容：「最新のエビデンスに基づく物理療法の臨床適応」

講師：西大和リハビリテーション病院 生野公貴先生

参加者：16施設44名



「最新のエビデンスに基づく物理療法の臨床適応」に参加して

やなせ整形外科 山本 真志

今回、物理療法の勉強会に参加させていただき多くのことを学ばせて頂きました。過去の勉強会、講習会を振り返っても、あまりこのようなテーマでの講演はなかったように思います。今回このようなテーマで勉強会が開かれたということは、やはり物理療法が注目されてきているということだと思えます。私自身、今まで物理療法について深く考えたこともなく、なんとなく治療の一環として取り入れていた程度で、それもホットパックやマイクロといったものがほとんどでした。

臨床場面では、疼痛がある場合や、安静の時期など治療がスムーズに進められない場面が多々あります。そんなときでも、少しでも早く効率よく治療を進められるよう、物理療法と運動療法を併用し、患者様にベストな治療を提供できるよう日々考えていかなければならないと感じました。

また、整形疾患のみならず脳血管疾患、内部疾患など、本当に様々な分野で適応され、私たちの治療場面で臨床的に応用できることが分かり



ました。

今回の勉強会で、物理療法の基本的なところから臨床応用まで十分な実技時間をとって幅広く教えていただき、物理療法の必要性、有用性をあらためて感じることができました。今後、臨床で役立てていければと思います。わかりやすく講義して下さった生野先生、準備して下さった役員の先生方、本当にありがとうございました。

【中紀発信】

中紀地域局担当理事 西川 典男

日時：平成25年3月26日（火）19：00～21：00

場所：北出病院

内容：①山口かずゆき応援・個人カード説明会（リバティ博愛 西川 典男）

②中紀局新人症例検討会（第4ブロック新人4名）

座長 芝 敏貴（リバティ博愛）

- | | | | |
|---|----------------------------------|------|-------|
| 1 | 装具療法により病棟生活ADLが向上した症例 | 北出病院 | 根来 拓弥 |
| 2 | 脛骨神経ブロックにより疼痛が軽減し歩行能力の向上につながった症例 | | |
| | | 北出病院 | 羽山 亮佑 |
| 3 | 家屋訪問後、理学療法内容に再検討を要した症例 | 北出病院 | 山根 由紀 |
| 4 | 上腕骨近位端粉碎骨折術後、関節可動域の改善に難渋した一症例 | 北出病院 | 池ノ上 覚 |

* * *

日時：平成25年3月28日（火）19：00～21：30

場所：辻整形外科

内容：①山口かずゆき応援・個人カード説明会（リバティ博愛 西川 典男）

②中紀局新人症例検討会（第3ブロック新人6名）

座長 嶋田 健司（有田市立病院）

- | | | | |
|---|--|-------|-------|
| 1 | 交通事故により外傷性頸椎症、腰部打撲と診断され、頭頸部・腰部に疼痛をきたした一例 | | |
| | | 辻整形外科 | 吉岡 大祐 |
| 2 | 右大腿骨頸部骨折術後、MMT での中殿筋筋力は good だがデュシェンヌ現象がみられた症例 | | |
| | | 辻整形外科 | 小笠原 諒 |
| 3 | 左大腿骨頸部骨折術後における歩行の立脚後期で股関節伸展減少に着目した症例 | | |
| | | 辻整形外科 | 田村 照彦 |

座長 宮原 ほずみ（済生会有田病院）

- | | | | |
|---|--|-------|--------|
| 4 | 脳梗塞右片麻痺患者様の麻痺側下肢荷重時の支持力改善によりトイレ動作獲得できた症例 | | |
| | | 有田南病院 | 山路 健太郎 |
| 5 | 左大腿骨頸部外側骨折を呈し歩行動作能力低下がみられる一症例 | 西岡病院 | 杉浦 宏太郎 |
| 6 | 変形性膝関節症を呈した透析患者の一症例 | 西岡病院 | 西村 光平 |

* * *

日時：平成25年6月8日（土）13：30～14：45

場所：済生会有田病院

内容：新人教育プログラム『E-3 国際社会と理学療法』

講師：西川 典男（リバティ博愛）

参加者：43名

日時：平成25年6月8日（土）14：45～18：00

内容：中紀親睦研修会『身体運動学からみた片麻痺の動作指導』

講師：細江さよ子（大阪士会）

参加者：74名

* * *

日時：平成25年6月8日（土）18：30～

場所：湯浅城

内 容：中紀局新人歓迎会

参加者：12 施設 48 名

【紀南発信】

紀南地域局担当理事 安井 常正

◇紀南地域局事業報告

勉強会

日 時：平成 25 年 4 月 26 日 18：30～

場 所：新宮市立医療センター

内 容：「急性期からのリハポジショニング」

担 当：安井常正（新宮市立医療センター）

参 加 者：9 施設 24 名

* * *

勉強会

日 時：平成 25 年 3 月 9 日（土） 15：30～

場 所：新宮市立医療センター

内 容：足部のバイオメカニクス

担 当：仲 賢一郎（しんぐう訪問看護ステーション）

参加人数：7 施設 14 名

各委員会より

■表彰審査委員会より■

表彰審査委員長 前 裕充

県協会からお二人の先生が受賞されましたのでご報告いたします。

心よりお祝い申し上げますと共に今後もお元気でご活躍されますことをお祈り致します。本当におめでとうございました。

第 31 回協会賞 中西 靖治（和歌山つくし医療福祉センター）

第 38 回産経市民の社会福祉賞 椎原 敏昭（椎原整骨院）

「協会賞を受賞して」

和歌山つくし医療福祉センター 中西 靖治

協会賞を頂きましてありがとうございました。
他の 6 名の先生方はそれぞれに著名な実績のある方ばかりでしたが、中でも小児のリハビリテーションを指導してこられたボバースアプローチのインストラクターである古沢先生や上田法のインストラクターである塩之谷先生と共に受賞できたことは、長年小児療育に携わってきた私としては大変光栄であり何より嬉しい事でした。協会賞はこれまで指導していただいた先輩の先生方や会員の方のご支援で和歌山県理学療法士協会として頂いた賞だと思っております。

入会当時からのことを振り返ってみますと、私は昭和 51 年に琴の浦リハビリテーションセンター若竹園に就職し入会しました。当時、会員は私を含めて 19 名で現在では考えられないような少人数でした。昭和 44 年に日本理学療法士協会和歌山県士会が 3 名で発足していましたが、前身は昭和 41 年に和歌山県で 3 名の理学療法士が誕生し、その翌年に発足した近畿理学療法士会でした。私は昭和 53 年から庶務部長として、昭和 59 年から 10 年間財務部長として、平成 10 年から 12 年間監事として担当させていただきました。入会初年度の昭和 51 年に 19 名の会員で第 16 回近畿理学療法士集談会を和歌山県担当で阪大病院で開催し、昭和 55 年に 24 名の会員で第 20 回近畿理学療法士集談会を和歌山県内で開催しました。会員が少人数のため全員で担当部署を兼務し



ながら行ったことをなつかしく思い出されます。その後会員も増加し昭和63年には第1回和歌山県理学療法士学会を開催し、平成2年には当会20周年記念式典を行い記念誌を作成しました。平成4年には会員131名で私の役員任期中最大の事業であった第27回理学療法士全国研修会を開催しました。前年に開催された千葉県と平成元年に開催された徳島県に視察に行き事前の準備や大会時の状況についてアドバイスを受けました。財務を担当していたので、全国からたくさんの方が参加され盛況に終わり赤字ではなく安堵したことを思い出します。

現在会員が900名を超える大きな会になりましたが理学療法士を取り巻く環境は厳しいものがあります。一方で社会から期待される理学療法士としての役割もますます高まってきております。今後もより一層の学術、公益、職能の会として発展を目指していかなければなりません。私も微力ながら寄与できればと考えております。

第38回 産経市民の社会福祉賞 受賞の5組決まる

障害者や高齢者、子供たちに寄り添って支援活動をしている団体、個人を顕彰する第38回「産経市民の社会福祉賞」(産経新聞厚生文化事業団主催、産経新聞社など後援)の受賞者に、大阪、和歌山、滋賀各府県の計5組が選ばれた。11月22日午後1時から大阪市の新阪急ホテルで表彰式が行われる。今年度は近畿2府4県の自治体、団体などから推薦された計14件を、ボランティアリズム研究所所長、岡本榮一さんら有識者7人が選考。高齢者の孤立死を防ぐため、巡回訪問や支援提供を行っている「室山ふれあい会」(和歌山県海南市、椎原敏昭代表)など5組に決まった。他の受賞者と主な活動内容は次の通り。

「セルフサポート by one」(大阪府泉佐野市、野崎淑香代表) 発達障害児や保護者の心理的サポート▽精神保健ボランティアグループ「夢ふうせん」(大阪府茨木市、三田進一代表) 精神障害者の居場所づくり▽梅原啓次・和美夫妻(大阪市) 被虐待児童ららを養育する里親▽おはなしグループ「ちっちゃなかせ」(滋賀県湖南市、河野由子代表) 図書館や保育園などで絵本の読み聞かせ会の実施。



■和歌山県スポーツ理学療法研究会 平成25年度第1回研修会報告■

紀の国和歌山国体支援特別委員長 林 積司
和歌山県スポーツ理学療法研究会代表 貴志 真也

日時：平成25年6月1日(土) 16時～
場所：辻秀輝整形外科 リハビリテーション室
時間：(16時～)

講師：奈良県立医科大学 整形外科講師 熊井 司 先生
※福建医科大学(中華人民共和国) 客員教授
シマノレーシング チームドクター(自転車ロードレース)
柏レイソル チームドクター

講義内容 『足部のスポーツ障害』
時間：(9時30分～10時30分)

講師：角谷整形外科病院 理学療法士 JASA-AT 貴志真也 先生
講義内容：『スポーツ現場における足部の評価とアプローチ』
時間：(10時40分～11時30分)

講師：須佐病院 理学療法士 JASA-AT 風神真也 先生
講義内容：『競技別対応知識：水泳競技における障害発生とその対応』
時間：(11時40分～12時30分)

和歌山県スポーツ理学療法研究会平成25年度第1回研修会に参加して

辻秀輝整形外科 岩城 光一



平成25年6月1日(土)午後4時から、辻秀輝整形外科で和歌山県スポーツ理学療法研究会平成25年度第1回研修会が開催されました。今回講師をして頂いたのは、関西医療大学大学院助教授の増田研一先生、辻秀輝整形外科アスレティックトレーナーの服部祐介先生、角谷整形外科の畑山大輔先生の3名の先生方で、それぞれスポーツ現場での貴重な経験をもとに講演して下さいました。

フットサル、サッカー、陸上競技の競技特性やサポート内容、競技レベル・年代を考慮した対応、遠征帯同時の対応、トレーナーブースの組織運営など他ではあまり聞くことのできないお話を聞くことができ、私達が今後サポート活動を行っていくに

あたってとても興味深い内容ばかりでした。

スポーツ現場ではリハビリテーションだけでなくコンディショニングやトレーニング指導が求められ、また競技団体によっては救急処置や栄養指導、ドーピング指導なども行わなければいけない現場もあるといえます。2015年の和歌山国体開催に向けて、私達一人一人が競技特性に即した知識・技術の研鑽を行い、国体選手や競技団体と良い関係性を築いていくことが和歌山県のスポーツ業界の発展にも繋がるのではと考えます。今後もサポート実績を積み重ね、スポーツ現場で活躍出来る理学療法士を目指して頑張っていきたいです。



事務局より

他団体・他士会からのニュース・学術誌の受領報告 (H25.2.21～H25.6.10)

【ニュース】

- | | |
|---|-----------------------|
| (公社)新潟県 No.160 | 山梨県 No.137 |
| (公社)滋賀県 No.177、No.178 | (一社)静岡県 No.137、No.138 |
| (社)大分県 No.94(155) | (公社)北海道 No.181 |
| (公社)広島県 No.224、No.225 | (社)佐賀県 No.91 |
| (一社)愛知県 No.169 | (社)宮崎県 Vol.9(71) |
| (社)大阪府 No.236、No.237 | 福島県 No.3 号外 |
| (社)福岡県 No.192、No.193 | (社)埼玉県 No.72 (113) |
| (社)神奈川県 No.250、No.251 | (一社)京都府 No.257 |
| (公社)熊本県 No.108、No.109 | (公社)秋田県 No.151、No.152 |
| (公社)鹿児島県 No.50(89) | (社)長野県 No.42 |
| (社)岐阜県 No.103、No.104 | |
| (社)富山県平成24年度 No.4(128)、No.2(126)、平成23年度年報 | |

【学術誌・学会誌・機関誌・記念誌】

第30回神奈川県理学療法士学会 抄録集
理学療法 技術と研究 第41号 研究のすすめ 臨床での私の研究の取り組み
富山県理学療法士会 40年史

紀流 第41号
和歌山県病院協会会報 平成25年3月号 No.213
会誌 和臨技 第40号
社団法人 岐阜県理学療法士会 学術誌第17号
和歌山県病院薬剤師会会誌 2012 第21号
滋賀県理学療法士会会誌 湖都 第32号 2012
静岡県理学療法士会学術誌 第27号
理学療法いばらき Vol.17 No.1 2013
理学療法の科学と研究(千葉県) 2013, Vol.4 No.1
理学療法兵庫 No.18 2012
その時リハビリはどう動いたか「東日本大震災岩手のリハビリテーション支援活動報告書」
静岡県理学療法士会学術誌 第26号
理学療法の臨床と研究 No.22 2013 (広島県)
理学療法京都 No.42、2013
社団法人埼玉県理学療法士会 四十年史
アシスティブ・プロダクツ Vol.8 2013 04
理学療法研究・長野 第41号 2012
高知県理学療法 第19号 2012
和放技雑誌 No.7
和歌山県病院協会会報 平成25年5月号 No.214
高齢者施設等における福祉用具利用と効果的な運用体制に関する実証研究 報告書
静岡理学療法ジャーナル 第26号(第17回 静岡県理学療法士会学会誌)
福島県 相談支援専門職チーム 活動記録 [平成23年～現在]
理学療法新潟 Vol.16,2013

以上の刊行物をご覧になりたい方は、

事務局 資料調査・管理部の坂本善朗氏(琴の浦リハビリテーションセンター)までお問い合わせ下さい。

■事務局からのお願い■

庶務部より 施設長名変更時のお願い

庶務部長 小田 佳亮

変更があった場合、速やかに協会庶務部宛にFAXまたはメールにてご連絡下さい。

協会事務局 FAX : 073-446-1207

メールアドレス : wpt-shom@pt-wakayama.or.jp

記載の内容に関しては、変更前の氏名と変更後の氏名の両方を記載お願いします。

また、フリガナの記載もよろしくお願ひ致します。

FAXにて送信して頂く場合は文字は大きめで崩さずに記載して頂けるようにお願いします。

編集後記

梅雨の真ただ中、会員の皆様いかがお過ごしでしょうか。

さて、本年4月1日をもって、当会は公益社団法人となりました。

公益を取得する意義については、巻頭言でも中前会長が述べられていますが、これまで我々が長年かけて培ってきたことが認められた証であり、誠に喜ばしいことで、すぐにでも祝杯を挙げたいところですが、公益性の高い活動を実施していかなければならないというハードルもあり、立ち止まることは許されず今年度も多くの事業が予定され、協会は常に歩み続けています。公益法人取得にあたり、煩雑な作業に時間を費やして頂いた諸先生方のご苦勞に敬意を表し、来年2月に開催される予定の公益社団法人認可の記念式典まで、喜びを温めておきたいと思います。

協会ニュースも、公益法人取得ということで紙面をリニューアルしました。デザインはくしもと病院の植山先生にお願いし、これまでより垢抜けたものになりました。

また協会ホームページのリニューアルも準備中ですので、皆様からのご意見等がございましたら広報局までお寄せ下さい。

今回のニュースは新卒入会の方々のプロフィールを掲載しています。それぞれの好きなものを書いて頂いていますので、趣味が共通で気が合いそうな方がいらっしゃったら、声掛けをして一緒にやってみるのもいいかも知れません。

今年の新入会員が100余名、会員総数はもうすぐ1,000名を超えようとしています。そのうちの80%が20～30歳の若い方々で、現在、協会運営を行っている執行部の多くは50歳代で全会員のわずか3.6%に過ぎません。10年以内には定年退職という現実を迎えることは必至であり、今後は若い会員の力で協会を盛り立てて頂くことを期待いたします。

(吉富 俊行)

公益社団法人 和歌山県理学療法士協会
【事務局】
琴の浦リハビリテーションセンター内
〒641-0014 和歌山市毛見1451
TEL 073(499)5000